

Contents

- 2 ページ上段、「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」をご存じですか？
- 2 ページ下段、臨床検査科および病理・細胞診断科は ISO15189 認定を更新しました
- 3 ページ上下段、第 17 回 日本ロボット外科学会学術集会「優秀演題賞」を受賞しました
- 4 ページ、「看護の日」のイベントを開催しました
- 5 ページ上段、「一緒に体を動かそう！ フレイル予防の会」を開催！
- 5 ページ下段、「希望の光」のオブジェをご覧ください
- 6 ページ上段、看護部国際看護交流 2024Part2～Welcome to Osaka International Cancer Institute～
- 6 ページ下段、異文化を学ぼう！外国人医師等、交流研修
- 7 ページ上段、大阪 4 大オーケストラによるクラシック音楽会を開催しています
- 7 ページ下段 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 8 ページ上段 寄付者ごほうめい
- 8 ページ下段 ご寄付のお願い

2 ページ

「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」をご存じですか？。経営改革グループ 松岡 和重。

2 当センターでは、通院の利便性をさらに向上させるため、スマートフォンアプリ『HOPE LifeMark-コンシェルジュ』のサービスを導入いたしました。患者さんやご家族がより快適に通院できるよう、さまざまな機能をご提供しています。ぜひご利用ください。

導入することで できること

- ・ 予約日時の確認・再通知ができます
- ・ いつでもどこでも予約状況を見ることができます
- ・ 検査や診察の前日に予約の再通知や当日の注意事項などが自動通知されます

こんな方におすすめ！

- ・ 通院の予約管理を手間なく簡単にしたい方
- ・ 待ち時間を効率よく過ごしたい方
- ・ スマートフォンを使わない家族の予定を代わりに確認したい方

まずはアプリをダウンロード！HOPE コンシェルジュと検索してください。

2 ページ下段

臨床検査科および病理・細胞診断科は ISO15189 認定を更新しました。

医療技術部 臨床検査部門 主任 富岡 篤史。

ISO15189 とは…

国際標準化機構（International Organization for Standardization）が定めた「臨床検査室の質と能力に関する要求事項」を示す国際規格であり、臨床検査室の技術能力を決定する手段の一つです。

大阪府下では 2025 年 4 月時点で 21 施設が取得しています。この認定の取得は、国際治験やがんゲノム医療拠点病院の指定には必須条件になっており、国際規格に基づいて臨床検査室の管理や技術的な運営、品質マネジメントシステムについて審査が行われています。

当センターは 2021 年 5 月に初回認定され、2 度のサーベイランスを経た 2024 年 11 月に更新審査を受審しました。2 日間にわたる厳しい現地審査がありましたが、認定取得後 4 年間の活動が認められ、無事に更新することができました。

当センターでは、さまざまな資格を持つスタッフが有する先進的な技術を駆使し、迅速かつ精確な検査結果を提供しています。引き続き、ISO15189 の厳格な基準を満たす質の高い医療サービスを提供し、地域の皆さまに信頼される病院を目指してまいります。

注釈 1

運営、品質マネジメントシステムとは、組織がサービスの品質を継続的に維持・向上させるための仕組みのこと。

注釈 2

サーベイランスとは、認証取得後の品質マネジメントシステムが適切に運用されているか、継続的にチェックする審査のこと。

3 ページ上段

第 17 回 日本ロボット外科学会学術集会「優秀演題賞」を受賞しました。

消化器外科 胃外科 副部長 柳本 喜智。

このたび、第 17 回日本ロボット外科学会学術集会において発表した演題「ロボット支援下胃切除術における Fusion Surgery」にて、優秀演題賞を受賞いたしました。

本研究では、胃がんに対するロボット支援下手術において、腹腔鏡手術用デバイス（超音波凝固切開装置、クリップ、ステープラーなど）を併用する手術手技「Fusion Surgery」の有用性と安全性を検討しました。Fusion Surgery は、ロボット専用デバイスのみを使用する従来法と比較して、手術時間や出血量の面で良好な結果を示しました。

当センターでは、本手技を全国に先駆けて導入しており、近年では医療経済的な利点や若手医師の教育への有用性も認識されるようになり、全国の多くの施設で採用が進んでいます。

この取り組みは、医師のみならず、手術室に関わる看護師や臨床工学技士など、多職種の協力によって支えられており、まさにチーム医療の結実といえます。

このような栄誉ある賞を賜りました事に心より感謝申し上げますとともに、日頃よりご指導・ご支援を賜っている関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。今後も、より質の高い胃がん手術の実現に向けて、なお一層精進してまいります。

3 ページ下段

第 17 回 日本ロボット外科学会学術集会「優秀演題賞」を受賞しました。

医療技術部 臨床工学技士 中島 健太。

このたび、第 17 回日本ロボット外科学会学術集会におきまして、優秀演題賞を頂戴いたしましたのでご報告させていただきます。

受賞演題名は「手術支援ロボット装置における清掃手順の見直しと ATP 拭き取り検査による評価」であり、当センターでのロボット装置の清掃管理について発表させていただきました。ダビンチをはじめとする手術支援ロボットは、全国の病院で多数運用されておりますが、ロボット装置本体を日常的に清掃管理している施設は非常に少なく、清掃管理方法についての報告もありませんでした。

また、当センターにおきましては、以前から臨床工学技士が不定期にダビンチの清掃を実施しておりましたが、不定期であるがゆえに清浄度が保たれているのか不明でありました。そこで感染症センターと協議を重ね、ダビンチの院内清掃マニュアルを策定、ATP 拭き取り検査にて清掃マニュアルの効果を研究評価し、報告させていただきました。ロボット装置の汚染程度や清掃効果などを定量的に示し、報告した点について評価をいただきました。

今後も医療機器に関する研究発表に注力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に本発表においてご指導およびご協力いただきました感染症センターの皆さま、臨床工学部門の皆さまには心からお礼申し上げます。

注釈 1。 ATP 拭き取り検査とは、目には見えない汚れを検出し、清潔にしておきたいところを「誰でも」「簡単に」「高感度に」「約 10 秒で」測定できるツール。

4 ページ。

「看護の日」のイベントを開催しました。

看護部 看護の日委員会：三井 綾乃、三島 千昭、谷川 美矢子、阪本 栄子。

5 月 8 日に、「看護の日」のイベントを開催しました。今年は、コロナ禍以降はじめて外来患者さんの参加も可能となり、多くの方にご参加いただきました。

「見て触れて、あなたに届く看護の心」をスローガンに、45 名の看護の日担当者全員で準備を進め

てきました。今年は、大阪府にも協賛いただき『もずやん®』と『かんどちゃん®』の二人の可愛いゆるキャラも来場し、大いに盛り上げてくれました。開催に先立ち、入院患者さん向けに、手作りのメッセージカードを準備し、患者さん一人一人にお届けしました。メッセージカードは愛情のこもったとても素敵な仕上がりになりました。イベント当日は、山根看護部長の心温まるごあいさつの後、各部署の紹介映像をお届けし、クイズ大会、体をほぐす体操を行いました。

部署紹介では、より身近に感じていただけるようそれぞれの部署の特徴を分かりやすい映像で紹介しました。

クイズ大会では、「ナイチンゲールの誕生日は？」など看護の日にちなんだクイズだけでなく、「手術室の部屋数は？」など、意外な問題もあり、趣向を凝らした内容となっていました。皆さん大きく手を挙げ、音楽に合わせて楽しみながら参加されていました。

体操では、立っても、椅子に座ったままでもできる体操を企画し、もずやん、かんどちゃんも一緒に参加しました。1曲目は軽快な音楽に合わせて全身を動かす体操を、2曲目は緩やかな音楽でゆっくりと深呼吸しながら、体も心もリラックスできる体操を行いました。日頃の疲れを、少しでも癒していただけたのではないかと思います。

参加された患者さんから「楽しかった」「もずやんとかんどちゃんに会えてうれしかった」「こんなに動いたの久しぶり、楽しかった」「皆さんありがとう」などのお声をいただきました。

今回のイベントを通して、スローガンにある「見て触れて、あなたに届く看護の心」をしっかりと届けられたと感じています。

この活動が、看護の心や助け合いの心を育むきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、看護の日イベント開催にあたり、ご協力いただきました大阪府 健康医療部 保険医療室 医療・感染症対策課医療人材確保グループの皆さまに、心より御礼申し上げます。

注釈 1。

看護の日とは、毎年5月12日に設定されている記念日で、近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで定められています。この日は、看護師の社会貢献をたたえ、看護の心、ケアの心、助け合いの心を広めることを目的としています。

5 ページ上段。

「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催！

看護部摂食栄養管理担当者会・がんリハ委員会。

4月23日、外来患者さん・入院患者さんを対象に「一緒に体を動かそう！フレイル予防の会」を開催しました。患者交流棟にあるルネサンス運動支援センターの『大阪国際がんセンター認定 がん専門運動指導士』によるフレイルについてのお話の後、椅子に座ったままできる運動を行いました。

運動は、がん患者さんのQOL（生活の質）の向上に有効で、治療を継続していくためにはフレイル予防が重要です。治療中はどうしても活動量が低下してしまうため、気軽に参加でき、「これなら自分でもできそう」と感じてもらえることを大切にプログラムを作成しました。

ご参加された皆さんは笑顔で、ご自分のペースで運動され、「楽しかった」「少しずつでも続けたい」といったお声もいただきました。

注釈 1。

フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間の段階を指します。年齢を重ねていくと、心身や社会性などの面でダメージを受けたときに回復できる力が低下し、これによって健康に過ごせていた状態から、生活を送るために支援を受けなければならない要介護状態に変化していきます。予防は栄養・身体活動・社会参加の三位一体です。（厚生労働省ホームページより）

注釈 2。

大阪国際がんセンター認定 がん専門運動指導士とは、がんの病態や治療に関する基礎知識に加えて、患者さんの苦痛や悩みをよく理解した上で、がん患者さんの QOL 向上に必要な運動の知識・技術を習得する、大阪国際がんセンターが監修したカリキュラムに基づきルネサンスが認定する民間資格。

5 ページ下段。

「希望の光」のオブジェをご覧ください。内科・外科系外来 山田 眞佐美。

当センター隣がん教室では、2022 年に、患者さん・ご家族を励まし勇気づけるテーマソング『希望の光』を制作しました。当センターの 2 階外来、患者サロン、地下の放射線腫瘍科で 2021 年から流している「ミストミュージック」の作曲家である、あえば こうぞう氏が作曲、隣がん教室のスタッフが作詞と歌を担当しています。

このたび、がん治療中の患者さんのご家族で、段ボールアーティストの米田明生様が、「人生とは、その人のたくさんの物語が集まった小説のようである。それぞれの人生と言う物語に『光』が差し、より明るい未来に『希望』を持っていただきたい。そんな想いを段ボールアートで表現しました」というメッセージとともに、『希望の光』をイメージしたオブジェを制作、寄贈くださいました。2 階の 15 ブロック受付に展示されています。ぜひご覧ください。

6 ページ上段。

看護部国際看護交流 2024Part2 ～Welcome to Osaka International Cancer Institute～
看護部国際化委員会・教育委員会 濱口 順子。

2 月の交流は、文科省の「さくらしょうへいプログラム」によって、ラオス大学の教員と学生、国立マホソット病院の看護師、計 8 名が、大手前大学のサポートにより当センターの見学・研修に来られました！

テーマは「日本・ラオスの看護リーダー育成プログラム研究と臨床実践の相互連携を学ぶ」こと！！

今回は教育というテーマでもあり、看護部教育委員会のメンバーである桑原副看護部長、小山師長、三島師長、濱口師長がそれぞれ日本の看護教育、実習指導、キャリアラダー、新人教育についてプレゼンしてくれました！

英語で準備した資料と、ラオス語に変換した資料を駆使しながらおこなったプレゼンに、皆さんから歓喜の声が上がりました。日本の医療や看護に興味津々で、たくさんの質問がありました。ラオス

は日本と真逆で、35 歳以下が 44%、35 から 54 歳が 49%、55 歳以上が 7%と若年層が多い背景からか、子供をイメージした質問が多かったように思います。院内ツアーでは特別病室、HCU、外来部門を見学し、日本の医療現場を体感していただきました。

私たちも久しぶりのナースキャップに、若い頃の自分を思い出す懐かしい時間となりました。

コプチャイ！（ラオス語のありがとう）

6 ページ下段。

異文化を学ぼう！外国人医師等、交流研修。

外国人患者受入れサポートチーム 小山 恭子。

3 月 7 日、外国の文化や理解を深めることを目的に、国際交流研修を開催しました。外国人患者受入れサポートチームのメンバーが研修当日の運営を行い、多職種 53 名の皆さまに参加いただきました。

「もっと活用！外国人患者受入れサポートチーム」をテーマに、山根看護部長より国際部発足の経緯から現在の活動状況についてご紹介いただきました。外国人患者さんが言語や文化・習慣や制度が違っても、日本人患者さんと同様に安全で質の高い医療や看護ケアを受けられるようにすることが目指すべき姿であることとお話しいただきました。

次に整形外科で研修中のエンリック・ゴオ先生（マレーシア出身）、消化管内科で研修中のアハメド・エルメリギ先生（エジプト出身）、ミゲル・カサド先生（スペイン出身）が、自国の医療の状況や食文化、自己紹介をしてくださりました。

また、「海外・国内の家族と三者通話を活用しよう」という内容で、国際部のカクさんと、日本国際看護師（NiNA）によりメディフォンタブレットを使用して実際に医療通訳への接続から、医師の IC 場面を想定してデモンストレーションを行いました。

最後に、国際部 部長の上堂医師より「このような研修の機会を持ち、コミュニケーションのハードルが少しでも下がりお互いに協力し合い外国人患者さんの受け入れを行えるように、継続していきたい」との言葉で閉会しました。

今後も外国人患者受入れサポートチームメンバーを多職種から輩出し、大阪国際がんセンター全職員の外国人対応力向上に取り組んでまいります。

7 ページ上段

大阪 4 大オーケストラによるクラシック音楽会を開催しています。

当センターでは、大手前への移転を契機に、患者さんのがんストレスの軽減を目的として、月に一度、大阪 4 大オーケストラ（大阪交響楽団・大阪フィルハーモニー交響楽団・関西フィルハーモニー管弦楽団・日本センチュリー交響楽団）によるクラシック音楽会を開催しています。

毎回、さまざまな楽器の編成で、クラシックやポピュラー音楽などバラエティー豊かな曲の演奏や、奏者による楽器紹介や曲の解説も行っています。

来場された入院患者さんからも「前向きな気持ちで治療に向き合う元気を頂きました。」などうれしいお声を多く頂いています。

今後も多くの入院患者さんに楽しんでいただけるよう工夫してまいります。現在、入院患者さん限

定とさせていただきます（ご面会や付き添いの方はご入場いただけません）

7 ページ下段

はい、こちら「がん相談支援センター」です。

がん相談支援センター 島 沙也華。

File19。アヤ世代患者さんのサポートについて。

アヤ世代とは、思春期から若年成人（おおむね 15 歳～39 歳）の患者さんのことを指します。

がん患者さんが抱える問題はさまざまですが、この世代は特に、がん治療に伴うにんよう性（妊娠する力）の低下、がん治療中や治療後の身体的問題に加え、将来への不安からくる心理的問題、就学や就労に関する社会的な問題、さらには経済的な問題や家族に関することなど多方面にわたるため、きめ細やかなサポートが必要です。

当センターでは、アヤ世代サポートチームとして医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・心理士と、がん相談支援センターからは社会福祉士が参加し、多職種で協働して患者さんご家族をサポートできるよう活動しています。

例えば、高校生の患者さんの就学支援として、学校やご家族と病院が連携し、リモートで授業を受けられるよう支援させていただいたこともありました。

「クビー」という機器と iPad を使用して入院中や自宅療養中でもクラスメートと同じ授業に参加し、必要な単位を取得されました。

チームへの相談をご希望の方は主治医や看護師、その他医療スタッフにお申し出ください。

また、がん相談支援センター前の情報コーナーにもさまざまなアヤ世代患者さん向けの情報を配架しておりますので、ぜひご活用ください。

注釈 1。

アヤとは、Adolescent and Young Adult の略

注釈 2。

クビーとは、左右に 300° 上下に 90° 自由自在に稼働するロボット。タブレット端末とつなぐことで自分の意思で、見たいところを自由に見回しながら相手とコミュニケーションがとれる

8 ページ上段

ご寄付について

寄付者ごほうめい 2025 年 3 月 1 日～5 月 31 日

蔵橋 由紀子様、近藤 百合子様、高山 富士夫様、豊国製油株式会社 代表取締役社長 今川 博道様、カミムラ ヨシイク様、林 智洋様、鶴田 フセツ様、ハットリ ヒロシ様、ハットリ カツコ様、小田 恵太郎様、宮腰 研司様、加藤 順子様、ホトカ トキキ様、稲垣 三枝子様、寺坂 博子様、イワエ ヨシオ様、株式会社オレンジホールディングス 代表取締役 柳生 美江様、カゲツ リョウスケ様、大野 真弘様、ウ ザオイ様、ヨネダ タカヒロ様、中島 博道様

他 匿名者 29 名

このたびもさまざまな個人や法人のかたがたから、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます

す。温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

8 ページ下段

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの治療環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆様からのご支援をお願いしています。

奥付

オーアイシーアイだより 2025 年夏号〈季刊〉

特定機能病院／地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局

〒541-8567 大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL 06-6945-1181（代表）

2025 年 7 月発行

◆電車でご来院の場合

大阪メトロ「たにまち四丁目駅」北改札口から徒歩約 5 分／京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約 10 分

◆バスでご来院の場合

大阪シティバス「大阪城大手前駅」より徒歩 4 分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「ほうえんざか出口」より約 5 分／東大阪線「森のみや出口」より約 8 分

【提携駐車場】

- ① エコロパーク大阪府庁駐車場
- ② 谷町筋地下駐車場（入り口は北向き 1 カ所のみ）

ほじょけんも同伴いただけます

ホームページ <https://oici.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/OICI.jp>

ライン <https://lin.ee/ZOcDHhU>